

議会だより

定例会

令和8年第2回定例会は6月18日に招集され、提出された案件を審議し閉会いたしました。

委員会報告

総務産業常任委員会

■調査期日…3月26日

■調査事項…地域外人材等の活用状況について

■調査結果…指摘事項なし

■調査期日…4月27日

■調査事項…重層的支援体制整備事業に係る委託業務の実施状況について

■調査結果…指摘事項なし

承認

○専決処分の承認を求めることについて

〔岩村橋補修工事の変更契約について〕

○専決処分の承認を求めることについて

〔北竜町税条例等の一部改正について〕

○専決処分の承認を求めることについて

〔令和7年度北竜町一般会計補正予算(第8号)について〕

○専決処分の承認を求めることについて

〔令和7年度北竜町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)について〕

○専決処分の承認を求めることについて

〔令和7年度北竜町立診療所事業特別会計補正予算(第3号)について〕

○専決処分の承認を求めることについて

〔令和8年度北竜町一般会計補正予算(第1号)について〕

○専決処分の承認を求めることについて

〔令和8年度北竜町一般会計補正予算(第2号)について〕

同意

○農業委員の任命について

藤井 啓二 氏(新)

川瀬 崇 氏(再)

永井 稔 氏(再)

山外 明人 氏(再)

新井 義明 氏(新)

川島 史伸 氏(再)

高畑 克洋 氏(新)

善岡 浩樹 氏(再)

植松 春雄 氏(再)

藤崎 正雄 氏(再)

○公平委員会委員の選任について

松本 和宏 氏(新)

原案可決

○北竜町特別職報酬等審議会条例の制定について

○北竜町議会の個人情報保護に関する条例の一部改正について

○議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について

○非常勤職員の報酬及び費用弁償支給に関する条例の一部改正について

○北竜町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について

○北竜町国民健康保険条例の一部改正について

○桜岡ひまわり住宅B棟建設工事請負契約の締結について

○北竜町除雪センター外構工事請負契約の締結について

○令和8年度北竜町一般会計補正予算(第3号)について

○令和8年度北竜町一般会計補正予算(第1号)について

○令和8年度北竜町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について

○令和8年度北竜町立診療所事業特別会計補正予算(第1号)について

○令和8年度北竜町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算(第1号)について

○令和8年度北竜町簡易水道事業会計補正予算(第1号)について

○令和8年度北竜町一般会計補正予算(第4号)について

報告済

○令和7年度北竜町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について

意見書提出

次の意見書を可決し、関係省庁に送付いたしました。

○ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書

一般質問

6月18日に開会された第2回定例会では、3名の議員から5件の一般質問がありました。



沖野議員

企業版ふるさと納税について

沖野議員

北竜町では、令和2年から企業版ふるさと納税制度を活用できる自治体として認定を受け、これまでに多数の企業から寄付をいただいている。

現在、他市町村から北竜町に事業所登録はないが町内で事業を行っている企業もある。それらの企業に企業版ふるさと納税をしていただくためのアプローチはできないか。

佐々木町長

企業版ふるさと納税は、国が認定をした地方自治体の地方創生にかかる取組に対し、賛同した企業が寄付を行い、税制上の優遇措置を受け

ることができるとなっている。

北竜町もこれまで多くの企業から寄付を頂いているが、色々な企業に周知が十分に行き届いているとは思っていない。現在取り組んでいる地方創生の取組をさらに応援いただけるよう、ホームページなどを活用し、広く周知をしていきたい。

現在町内にて事業を行っているいただいている他市町村からの事業者に対しても、制度の周知を図り、検討いただけるように努めていく。また、令和8年度では、子育てに賛同してもらい多額の寄付をいただいた企業もある。

沖野議員

他市町村から北竜町に店舗等を構えている事業者は関係人口でもあるし、町の発展にも協力していただいているので、企業版ふるさと納税にも賛同いただければと思っている。



沖野議員

地域公共交通について

沖野議員

10月からの運行については自主財源での運行になる。ダイヤの見直し等があると思うが、順調に進むか不安がある。

また、複数の運転手が変わり車両管理がうまくできているのか。

佐々木町長

昨年10月から開始した地域公共交通については地域未来交付金の制度上、実証期間が1年間と定められているため、10月から来年3月までの

納税いただいた際には、北竜町の発展に協力いただいている企業としての証など発行できないか。

佐々木町長

現在、数社には感謝状を贈呈をしている。

6か月間については自主財源により運行を維持していく。

特別交付税として8割が措置されるため、実質的な町負担は2割となる。

来年4月以降の運行については、北空知地域公共交通活性化協議会において、北空知利便増進計画を策定すること、国庫補助金の地域内リーダーシステム補助利便増進事業の活用を予定している。

10月からの運行内容は、利用実績やアンケート結果に加え、高校生へのヒアリン

グ調査等の結果を踏まえ検討する。

車両整備は、異常発生時の対応マニュアルの作成など情報共有を図る事に加え、定期的な車両点検体制づくりを構築する。

沖野議員

いまだ予約の不具合もあると聞くが、利用者の満足度は高いと認識している。

半年間の運行収入で291万円と聞いているが、収入とコストのバランスが悪いと感じる。

佐々木町長

コストは現在集計をしているので、結果をみて9月までに運行ダイヤ等を考えていくとともに、6月に町にとって有利な地域公共交通活性化の法改正があったので合わせて考えていく。

また、近隣の町との連携を考えていく。



寺垣議員

北竜町役場庁舎の外壁 景観について

寺垣議員

令和11年度には学校施設等再編計画実施により、北竜町役場前の国道275号線の景観のイメージアップが期待される。

また、ひまわりまつりのメイン会場においても現存の観光センターに替わる「(仮称)わくわく未来創造館」の建設が予定されているところである。

現役場庁舎においても町の看板的な建物だと思いうので、経年劣化が著しい外壁だけでも塗装のし直しを行っても良いのではないかと思うが、理事者の考えを伺いたい。

佐々木町長

北竜町合同庁舎は、昭和36年建設以来65年が経過している。平成11年にすこやかセンター増設時に改修工事を行ってから外壁塗装は行われていない。

た計画を進め、住民が安心して利用できる庁舎を目指すこととする。

寺垣議員

国がすすめているGX推進法があるが、カーボンニュートラルを進めてゆく観点から、将来の役場庁舎の改修工事を行う際に、ペロブスカイト太陽電池などの環境に負荷をかけない建材の活用も視野に入れるべきと考えるが見解を伺う。

佐々木町長

国では国土強靱化法の施行により令和7年度までにあらゆる自治体の合同庁舎や役場庁舎の防災化の強化工事を推進し達成率が92%に達している。

環境省が推進するGX推進法案も含め、また、道内の先進事例なども参考にしながら防災機能をより充実させ地方創生に資するよう検討したい。



寺垣議員

ひまわり油の今後の 展望について

寺垣議員

今年度より、「ひまわり油」及び「ひまわりナッツ」用の作付面積が減少し、また、委託先の事業者においても、今後人手不足等による、作付け作業や出荷前の加工作業に影響が出る事が予想される。

製油加工を委託している業者も高齢化や機材等の老朽化により業務の継続に不安を抱えていると聞く。

ひまわり油は、ひまわりライスと並ぶ北竜町の重要なメインアイテムのひとつであるが、今後、どのような展開を見込み、いかなる手立てを講じて行く予定なのか理事者の考えを伺う。

佐々木町長

ひまわり油は町の重要な特産品であり、一番搾りひまわり油は令和5年に北海道「北のハイグレード食品」に選ばれている。

ご指摘のように、油用ひまわりの作付面積は令和7年が695aであったが、今年度は442aとなり、委託先も2か所から1か所に減少している。また、従来より北竜町の特産品としてのこだわりとして無農薬栽培や収穫後の手作業での選別など、委託先の方々には大変なご苦労をいただいている。

製油加工を委託している事業者についても、新しい受け入れ先の調査を行っており、これまでと同品質の製油が可能であるかも含め、また、商品についても食用にこだわらず、「北竜産のひまわり」を使用しPRできるような新商品の開発も視野に入れ、事業継続の努力を重ねつつ、地方未来交付金の活用方法も考慮し今後も慎重に検討を進めていく。



澤田議員

ひまわりの里の景観保全のための条例制定について

澤田議員

ひまわりの里は38年目であり「ひまわりまつり」は40周年を迎える。

ひまわりの里は、北竜町の唯一の観光資源であり、「(仮称)わくわく未来創造館」の設置により夏のひまわりの時期のみでなく、通年の利活用となっている。

しかし、ひまわりの里に対する景観や環境を保全するための措置がない。多くの人々にひまわりの里で心地よく過ごしてもらうためのツールとしての景観保全についての条例が必要ではないか。

佐々木町長

過去、北竜町にはアピールできるものが無く、道内・道外で北竜町の位置的説明すら難しかった。ひまわりに着目した農協職員や家族の健康に注目した農協婦人部の活動と

観光資源としての可能性から、ひまわりの里が多くの関係者の努力と協力により始まり、そして継続されてきた。

ひまわりまつりは40周年を迎え、令和11年度の共用開始に向け「(仮称)わくわく未来創造館」の整備計画に入った。

この施設を拠点にひまわりの里周辺の観光資源の一体的な活用を図り、多くの来訪者に北竜の魅力を発信したい。

町としては、景観保全の視点から管理ルールの明確化や来訪者のマナー向上に向けた啓発、施設関係の整備など進めている。

景観保全に対する条例制定については、ひまわりの里関係団体や地域の皆さんのご意見を伺って手法について検討していく。条例制定についてはマイナズ部分もあり、町民みんなの声を「宣言」としてどうかと言う声もあり、こ

れから歩きながら作り上げるのも良いのではないかと思う。

澤田議員

ひまわりの里周辺は農地であり、個人農家の所有となっている。従来、農作業はひまわり観光とは重ならない状況であり、作業上の騒音、悪臭の発生など特に考慮する必要はなかった。今後、ひまわりの里観光が通年で行われるとなると、農作業上の騒音・悪臭・町道の汚染などが発生する可能性がある。

あつてはならないことだが、故意による騒音・悪臭・汚染に対しては毅然とした対応が求められる。町民がこぞって参加する「宣言」という考えについては大変良い事と思う。いろいろ危惧する部分もあり「(仮称)わくわく未来創造館」の開設に合わせて考えて頂きたい。

佐々木町長

さまざまな課題について、十分話をしながら進めたい。悪質な犯罪に類する件に対しては自治体として警察など関係機関との連携をもって毅然とした対応をしたい。

行政視察

6月5日、町理事者・担当課長等出席の下、行政視察を実施しました。

町内視察

社会教育施設、やわら保育園、真竜小学校、北竜中学校、永楽園、町立診療所、研修農場、しらかば並木公園、サンフラワーパーク北竜温泉、その他のりっち、ひまわりの里



研修会

北海道町村議会議員研修会

令和8年7月2～3日の日程で参加してきました。

2日は、札幌コンベンションセンターにて、北海道町村議会議員研修会が行われ、関東学院大学法学部地域創生学科教授 牧瀬稔氏とTV「そこまで言って委員会NP」などに出演中の経済ジャーナリスト 須田慎一郎氏の講演が行われた。

牧瀬氏からは、地方創生の振り返りや人口減少への取り組みなどを講演いただき、自治体を企業に置き換えた例や他自治体の人口増加の成功例など伝えられた。須田氏からは、日本再生のために何が必要かを政治経済からの視点で、国会の裏話などユーモアを交えながら講演いただいた。

3日は、泊村に移動し泊発電所を視察。嚴重な警備体制の中、稼働停止から14年が

経った3号機が令和9年度に再稼働が認められ、準備のための大掛かりな工事や建屋内の見学をさせていただいた。

2001年アメリカ同時多発テロ・2011年東日本大震災・2018年胆振東部地震ブラックアウトの発生を受け防災対策がバージョンアップされている説明を受けた。

いまだ、使用済み核燃料最終処分場の問題解決はしていないが、これからの展望も聞けて有意義な研修であった。

(沖野 学)

活動報告

【7月】

2～3日：北海道町村議会議長会議員研修会及び道内行政視察

8日：北空知議会議長連絡協議会中央要望実行運動事前打ち合わせ

9～10日：北竜町団体長中央要請活動

13日：総務産業常任委員会

14日：JAきたそらち北竜支所組合員の集い

15日：北竜町交通安全の日町民集会、空知町村議会議長会議員研修会

17日：例月出納検査（監査委員）、北空知広域水道企業団議会臨時会、深川地区消防組合議会臨時会

20日：第62回北商ロードレース大会、ひまわりの里オープン式

22日：第3回地方創生トーク、北竜町農業の未来を考える特別委員会

23日：北空知議会議長連絡協議会議員研修会及び親睦交流会

活動予定

【8月】

3～5日：空知町村議会議長会中央要望

5～7日：北空知議会議長連絡協議会中央要請活動

18日：北竜盆踊り大会

20日：北竜町戦没者追悼式

20～25日：決算審査（監査委員）

未定：総務産業常任委員会、例月出納検査（監査委員）

「時、その時々」

時には、様々な時がある。瞬間、秒、分、日、月、年、50年、100年等……人々は地球上でその繋がりの中で生き生かされている。

今、これまで平和を維持して来た世界の秩序が大きく壊されている。中でも大国の政治権力者による身勝手な他国への侵略によって大きな犠牲を出し、目に余る事態が繰り広げられている。

第二次世界大戦で、日本が大敗してから81年。平和憲法を守り、国連憲章を尊重し、世界の秩序を維持して来た日本政治の在り方が問われている。政治権力者は、国民の生

議員

コラム

命と財産を守るといいたが、戦争で最初に被害を受けるのは弱い立場の一般国民である。政治権力者が統治し易い仕組みを考えて、憲法改正させるのではなく、弱い立場の国民の事を考える憲法が必要である。

戦後81年、多大な犠牲を出しながら生き延びてきた者の一人として、過去、現在、そして今後に必要な事を記しておきたい。

国会議員の定数は削減する必要はない。何故なら、一票の格差に是正が求められているが、大都会と地方の過密、過疎化社会の矛盾として現れたものである。人間は大切な存在だが、生存に必要な水と食糧は大自然との循環の中で生き、生かされている。人間の驕りを戒め、地方の活性化を促す為には一票の格差は1対3くらい容認されるべきだ。

選挙制度の中で考慮すべき事は人口密度を中心とした制度ではなく、その区割りの領域、領海、領空を考慮した制度が必要だ。そうしなければ過疎に歯止めがかからなくなる。

(木村 和雄)

第30回議会議長杯

町民パークゴルフ大会

第30回議会議長杯パークゴルフ大会は6月26日に開催され37名（男性26名、女性11名）が参加しました。

議員も参加し町民の方々と交流しながら盛会のうちに終了しました。

●男子の部 優勝

竹林 孝夫 氏

●女子の部 優勝

小林 フミ子 氏

